

令和4年度 徳島大学（被災建築物）応急危険度判定訓練研修会 実施報告

常三島技術部門
ものづくりグループ

河村 勝（KAWAMURA Masaru）

1. はじめに

1946年12月21日に発生した昭和南海地震から76年が経過。南海地震はおおむね100～150年で発生している。南海トラフ巨大地震はこの30年以内に70～80%程度、40年以内に90%程度の確率で発生すると予測されている。南海トラフ巨大地震後、津波も発生し間違いなく大きな人的被害、建物被害を受けることが想定される。徳島大学でもその被害に対して震災後に二次災害を防止する目的で応急危険度判定を実施することになっている。また、それに加え地震直後の避難行動も重要である。津波から逃れるために建物の3階以上に避難しなければならない、その建物が倒壊する危険性があるかどうかを早期に判定し、その建物にとどまることが出来るのかを判定しなければならない。その判定により、避難可能建物へ避難誘導を行う。平成28年度より、研修会に徳島大学自衛消防隊の方々にも参加してもらい、「建物避難の要否を見極めることができる」人材育成を試みている。平成26年度から継続、今年度で9年目となり累計256名の受講者となった。現在、年に2回研修会を開催し、10月に常三島キャンパス、11月に蔵本キャンパスにて実施した。今回ここにおいて、11月に開催した蔵本キャンパスの応急危険度判定訓練研修会について報告する。

2. 応急危険度判定訓練研修会概要

- ・研修名：
令和4年度
第2回応急危険度判定訓練研修会
- ・日時：令和4年11月22日（火）
13：15～17：15
- ・会場：徳島大学蔵本キャンパス
蔵本会館2階 多目的室2
- ・講師：河村 勝（一級建築士）
- ・研修会参加者総数：6名

・スケジュール：

13:15-13:20	あいさつ
13:20-14:40	座学1・座学2
14:40-14:55	座学3（損傷度の説明）
14:55-15:10	班決め・判定装備確認
15:10-16:30	応急危険度判定訓練
16:30-16:45	移動・休憩
16:45-17:15	WS

3. 実施内容

座学1（図1）では、応急危険度判定、判定士、判定士の必要要件、業務内容、判定の装備、判定表など基礎知識を学んでもらい、また、建物避難の要否を見極めることができる人材育成についても説明を行った。座学2では判定方法・判定の解説および判定の流れについての動画を踏まえ詳しく学んでもらった。



図1 座学の様子

損傷度の説明では、WSでの要望により判定士が損傷度の判定を分かり易く理解できるように被災事例を利用した解説書で詳しく説明を行った。

応急危険度判定訓練では、基本である2人1組で判定を行った。今回、蔵本キャンパス内の青藍会館と先端酵素学研究所A棟の2棟を判定することにした。事前準備として判定に必要な損傷のイラスト、写真等を建物に貼った。まず初めに青藍会館にてどのように

判定をしていくのかレクチャーを行い(図2)、その後2棟目の先端酵素学研究所A棟を判定してもい、最後に各班から判定結果を発表してもらった(図3, 図4)。



図2 レクチャー中の様子



図3 判定の様子

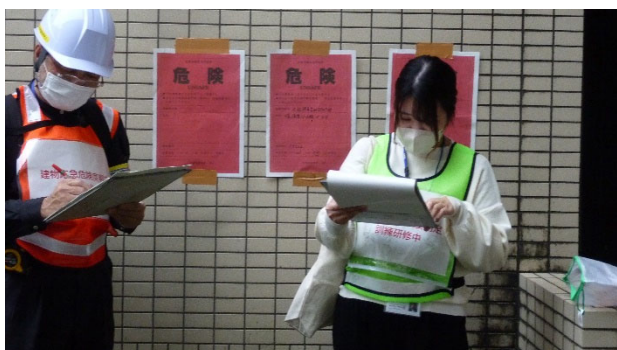


図4 各班による判定の説明と発表の様子

WSでは、色つき付箋を使用し、今回受講した研修会について各自の意見を書いてもらい、ひとりずつ発表していただいた。今回の応急危険度判定訓練について、研修会全体についての良かった点・悪かった点・反省および改善点などの意見交換を行った。「実際の現場はガレキ等すごいだらうから装備をしっかりしておく」、「窓ガラスの説明があったのにわすれていた」、「柱の損傷度IVとVの差をもっと確認する」、「平面図があっても柱の位置確認がむずかしかった」、「実際に

災害がおきた後は周辺に落下物があったり、余震等の恐れもあるためできるだけ迅速に危険度の判定を行う必要があると感じた」、「研修に参加してどのような建物が危険なのか確認するポイントがよくわかりました」、「今回初めて訓練研修に参加し、とてもむずかしかったし重要な判定だと思いました。今後役に立つように覚えておきたい研修でした」、「今回の研修を受講するまで建物の応急危険度について何も知らず考えたこともなかったのですが、災害時に身を守るためになくてはならないことだと感じました」、「実際の家屋の写真・動画を見せていただいたり、訓練を体験することでより分かりやすく学ぶことができました」、「忘れないうちに職場で知識と道具の場所を共有したい」、「内容をきくと忘れるので定期的に見直したい」などの意見が挙がった。

4. まとめ

今回で、この研修会も9年目となり研修会として確実に定着している。平成27年度から年に2回研修会を開催することを決定し継続している。人材育成のためにも意識向上のためにも、繰り返し実施することが重要であると考えている。今年度は参加者が少なかったが、今後も多くの方が受講していただけるよう、WSでの意見等を検討し工夫、改善などを行う予定である。